

みみタロウ

日本語版 ☆ 116号 2016年2月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」
大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : http://www.s-i-a.or.jp
Facebook : https://www.facebook.com/siabiwako

友好を紡ぐ一本の糸に

今回みみタロウは、韓国語の講師や韓国の歴史、文化の紹介などで活躍されている大韓民国百済文化祭海外広報大使、洪歳熙さん(野洲市在住)にお会いし、お話をうかがいました。



幼少のころから音楽を勉強していた私は、いつしか日本の音楽が大好きになり、大学で日本語を勉強した後、日本で音楽活動をしてよう来日。東京や大阪の

コンサートホールなどでプロの歌手として歌っていました。その後滋賀出身の夫と結婚し、ここに住むようになったのが12年前のこと。滋賀では音楽活動の場が減り悩んだ時期もありましたが、できることからやっというところから地元の国際協会等で韓国語を教え始め、今では講座の中や学校で文化の紹介にも力を注いでいます。

こうした活動をしていると、お金では得られないたくさんの温かい心の交流が生まれ、私の宝物になっています。その中でも忘れられない思い出は、2008年、韓国に行ってみようという生徒さんたちの声や、また通訳で知り合った百済文化祭推進委員長からの招きもあり、百済文化祭へのツアーを手作りで実現したこと。生徒さんやその知り合いの方々に加えて帰国の機会に恵まれなかった在日の方々に招待し、そして私は団長を務めて総勢150人、飛行機一機をチャーターしてのツアーになりました。百済文化祭では、同行した日本中央競馬会の騎手の騎乗する馬が先頭をパレードし、忠清南道公州市が歓迎会を催してくれるなど、大感動の旅行となりました。このような民間人同士の純粋な交流の場が増え、韓国と日本との良い関係にもつながることを願っています。

韓国と日本は1300年ほど前から大切なものを与え合いながら共に歩んできましたが、幾つかの争いや日韓併合など厳しい時期もありました。歴史は立場によって解釈が真逆にもなります。韓国では、1910年から1945年までの日韓併合35年間の歴史を被害者として学び、多くの韓国人がそのような感情を日本に抱いているのは事実です。誰もがもし1年間だけでもいじめにあったら一生そのことを忘れられないように、それはなかなかふっきれるものではありません。ただ私個人と

しては、祖父が強制労働に日本に連れてこれられましたが、その事を含めて日本に関してそのような情報があるというだけで、自分が体験したことではありません。ですので、日本の音楽を好きになったり、日本に来ることは別次元の話で、特にこだわりはありませんでした。

私は世界各地を旅行するのが大好きです。旅先では、聞いている情報とはまた違うその土地の暮らしに触れることができます。例えばアフリカでは地球温暖化の影響で中央部のチャド湖の面積が急激に消滅し、暮らしに困っている人々に出会いました。この原因が地球のこちら側の責任でもあるように、どこに行っても実感するのは、地球が一つであり、言葉が違っていても人のすることはあまり変わらないということです。また、遠い国の人に「私は日本に住む韓国人だ」と言っても「それがどうしたの？顔も一緒だし、日本と韓国とはくっついていんじゃない。仲が良いから喧嘩もするんじゃないの」と言われたりします。世界からみれば、そんなもの。時には喧嘩もするけど、こんなに長く交流が続いているのは深い友情の証です。過去の出来事が政治に利用されることもあります。自分の感覚を大切に、お互いの理解を深める活動を続けたいと思います。

日本の素敵なのは、何事もきれいにきちんとしてしようとする人々の意識です。これは子どもの時から、人に迷惑をかけないという日本の教育の産物だと思います。韓国から訪れる友達も、日本人が親切なことや物事が整然と運ぶことに驚きます。しかし、これは裏を返せば、筋書き通りいかない時には行き詰まってしまう弱点も抱えているようにも思えます。このような点で、私たちが外国人がうまく日本に融合することで、もっと柔軟で住みやすい社会になると思うのです。私たち外国人は、自ら選択して母国を後にした勇氣ある者たちです。もう一步踏みだし、日本社会の中に飛び込み、得意なことを活かして活躍しましょう。

私の夢は、滋賀で韓国の歌や踊りなどのコンサートを開催し、多くの人に韓国文化を楽しんでもらうこと。いつか実現したいですね。